

市立札幌豊明高等支援学校 開校 50 年記念式典 校長あいさつ

みなさん、おはようございます。

豊明の開校 50 年記念式典の開催にあたり、ごあいさつを申し上げます。

本日、札幌市副市長 加藤 修様をはじめとして、本校を応援してくださっている多くのご来賓、保護者の皆様をお迎えして、開校 50 年目の記念式典を開催できることを大変うれしく思います。

ご来賓の、第 15 代校長 池上 修次様、第 16 代校長 村岡 章子様、第 17 代校長 小山 学様には後ほど、生徒会が企画した催しに参加していただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

そして、50 年もの間、本校の教育活動に協力してくださった地域の方々、その時々の方々の保護者の皆様、教職員のみなさん、卒業生の先輩たちに対し、心から感謝いたします。

さて突然ですが、みなさんは「スーパー戦隊シリーズ」を知っていますか？ 「秘密戦隊ゴレンジャー」からはじまり、一番最近では「ナンバーワン戦隊ゴジュージャー」まで、長い期間、たくさんの方に勇気を与えてくれていたスーパー戦隊シリーズですが、豊明と同じように、始まってから 50 年という記念の節目を迎えました。みなさんにとって一番思い出に残っているスーパー戦隊はどのレンジャーでしょうか？ スーパー戦隊シリーズの最初の「秘密戦隊ゴレンジャー」がスタートした時、私は小学校 4 年生で、よく観ていました。その後スーパー戦隊は観なくなりましたが、私の子供たちが観ていたこともあって、「タイムレンジャー」や「デカレンジャー」は思い出に残っています。

みなさんも知っているとおり、赤 青 黄 緑 ピンクなどのカラーのヒーローたちが、力を合わせて悪い敵をやっつけて、世界の平和を守ってくれるというストーリーで、最後には必殺技やハイテクな武器が出て、さらに、超大型ロボットまで登場するところなどは見ものでしたよね。

しかし、これからの時代は誰かを「悪者」にしてやっつける時代ではないと思うのです。なぜなら、これから先の世界には、簡単に「こっちが正しくて、あっちが悪者」とは言えない難しい問題がたくさんあることが予想されるからです。意見が違う人、文化が違う人、いろいろな人と共に暮らす社会はすでに始まっています。

スーパー戦隊の本当のカッコよさは、敵を倒すことだけではありません。それぞれ違う個性や得意技を持った仲間が、力を合わせることです。これからの時代に必要な「本当の強さ」とは、相手をやっつける力ではなく、「違うだれかと仲間になれる力」「一緒に新しい未来を創る力」です。

生徒の皆さんは、自分の個性・強みを改めて確認し大切にしてほしいと思います。スポーツが得意な人、ゲームが得意な人、大きな声で気持ちの良い挨拶ができる人、手紙や文章で自分の気持ちを丁寧に伝えられる人……。そんな、それぞれの個性・強みをもつみんなが手を取り合えば、この豊明、そして札幌の街全体がもっともっと素敵な場所になるはずです。

そのように考えると、これから先の時代を切り開いていくスーパー戦隊の一員はあなた方一人ひとりです。互いを思いやり、カバーし合おうとする優しさとチーム力で、明るい未来が訪れることを願い、豊明開校 50 年記念式典のご挨拶といたします。

令和 8 年 10 月 24 日

市立札幌豊明高等支援学校 校長 益満 等之